

**KBS**  
ケイビーエス株式会社

**つばさ**

**つばさ**  
[社内報]

**77** **20**  
30周年記念特集号

発行:ケイビーエス株式会社 社員一同

編集長:高允男 / 副編集長:志方正美

編集:KBS制作部

〒544 / 大阪市生野区勝山北2-16-17 / 電話06-716-5665 / FAX06-711-2104 / E-mail:kbs@kbsjapan.com / NiftyID:LDD01703

**賀 正**

KBS的30年蹉跎岁月，  
似风、似雨，似花、似锦。  
曾几度山重水复疑无路，  
迎来是柳暗花明又一村。  
愿KBS再接再励，  
愿KBS海阔天空。

郝晓雯

## ああ、創業30年！ これからも一歩先を進む

創業30年！ いろいろあった。

始めは大阪市西成区の在日韓国西成教会の中にあった。広さ9坪のトタン屋根のバラックの建物の中に小さな手差し活版印刷機と鉛の活字が並べられた文選台、そして、活字を並べて組版をする組版台、これらがおかれた狭い場所だった。これがKBSの始まり僑文社であり、1968年に創業したのだ。

ガツンゴットン、活版印刷機で印刷しているものは在日韓国キリスト教会の機関紙「福音新聞」だ。タブロイド4ページ。2ページは日本語で、2ページがハングル。この活字は近くの活字屋さんで字母を作り、鑄込んでもらった。

韓国向けのカatalogなど、オフセット印刷をする場合、活字で組版して清刷りする。清刷りというのは校正刷りのようなもので、1、2枚だけアート紙のような紙に印刷して、それを写植の代りに版下に張り込んだものだ。

その後、オフセット印刷機の導入、写植機の導入。しかも、その写植機は写研のSK-3RYといって鉄のかたまりのような、重たいものであった。

1981年に角川書店より「朝鮮語大辞典」の組版の話があったが、これは手動写植ではとてもかなわない。ハングルの電算化をせねばと、写研とモリサワに打診したところ、モリサワがOK。翌年1982年9月にハングル電算写植入力機の第1号機が我が社に入った。現在、その入力機は使命を終えて私の部屋に置かれている。

1984年ごろ、ワープロがデータの入力に使われ始めたので、日本語も含め、ハングルの入力をワープロでしようと、NECパソコンPC-9801で入力と電

算へのコンバートを考えた。これまでは電算写植の入力は専用入力機で行っていたがこれをパソコンで入力することで、入力作業の分散化ができ、多い時は外部にお願いすることもできた。

1987年にはリョービのRECSシステムを導入。これもパソコンで文字入力ができるようにし、しかも書体指定までできるようにした。メーカーからは「書体指定はできません」と言われたが、私ば「できる」と思った。また、逆変換もできるようにした。訂正の多いものを電算の上でするのは効率が悪い。パソコンに戻して校正をして改めて電算の方へデータを持っていくようにした。

私はシステムを導入するとき、まずハングルができるかどうか、というのをポイントにする。このRECSシステムは縦横の座標で文字を拾うので、文字盤さえあればどんな言語でもできた。その後ロシア語、スペイン語などなど多言語組版の始まりだ。入力はすべてパソコンでできた。これらのデータはモリサワの電算とも共有ができた。

1991年にはマックを視野に入れた。韓国に行ってみるとハードは日本のとまったく同じマックなのに、ハングルが走っていた。そこで「システムさえ変えればどんな言語でもいける。いっそシステムを混ぜてみよう」。そして、完成したのが、マックの多言語システムだ。

今年30周年。これから40年、50年へとケイビーエスは歩み続ける。しかも、つねに一歩先を進む。

1998年1月1日

高仁鳳(Ko Inbong)

# KBS 30周年を祝して

## 「ハミョンテンダ」と「共生」の精神で前進を

株式会社角川書店

元代表取締役専務 佐野 正利



創業30周年おめでとうございます。

最初に高仁鳳社長がご来社下さったときのいきさつはよく覚えていませんが、文京区にあった東京出張所に来られるといつも当社にお見えになり熱心に営業活動をされました。そういう中で当社が進めていた朝鮮語大辞典も原稿が準備出来、一部をお願いすることにしました。当時はまだ開発途上にあった写植の電算化でしたが、高さんの研究熱心が実り、ハングルの電算写植を開発したと聞いたときは半ば疑問でしたが、日韓通じて初の快挙でした。そのお陰で辞典は順調に組み上がりました。この仕事を通して社員の皆さんも良き経験になったのではないのでしょうか。

高社長の情熱と技術革新が仕事を生み出し、まさに時代の要求に応える印刷会社として国際的な場へ跳躍発展を遂げられました。「ハミョンテンダ」と「共生」の精神で、社長・社員一丸となって21世紀に向かって前進されることを祈って、30周年のお慶びを申し上げます。



朝鮮語大辞典

## アジア各国の相互の理解が益々重要

株式会社 モリサワ

会長 森澤 嘉昭

高仁鳳社長の率いるハングル写植のパイオニア、ケイビーエス株式会社が、幾多の困難を克服してご成功され、このたびめでたく創業30周年を迎えられましたことを心より喜び申し上げます。

“つばさ”を意味する、広報紙『ナルゲ』というタイトルは、まさに御社の企業ポリシー、事業範囲、そして企業の勢いを表していると感服しております。

一口に多言語と申しまして、これらとの取り組みは、並大抵の考えや努力ではなせるものではありません。ここまで到達されるには、社長様初め社員の皆様の血のにじむようなご努力があったことと存じます。幸いなことに、コンピュータの発達に



より、御社が長年もち続けてきた理想は、今実現に向かって加速度的に進捗しているように見えます。

これからの時代は、アジア各国の相互の理解、スムーズなコミュニケーションが益々重要といえましょう。私共も文字組版メーカーの一員として、御社の今後の活動を微力ではございますが、お手伝いさせて頂きたいと存じます。

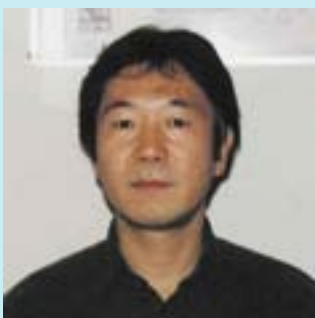


ハングル電算写植入力編集機の第1号機

## さらなる技術の発展に期待

株式会社三修社 編集部 藤田眞一

小社は1985年に月刊『基礎ハングル』を創刊しました。明朝とゴシック入り交じったハングル、万国音標文字にカタカナルビも付け、表組あり、学習効果を高めるために文字の大きさを何種類も使う



という最高難度の組版ができる印刷所は東京にはありませんでした。たどりついたのが当時「僑文社」を名のっていたKBSです。

月刊誌の性格上絶対に配本日をずらすことができないため、ずいぶんご無理をお願いいたしました。私も校了のために「僑文社」の隣りにあった旅館に泊まり込んだことを思い出します。

結局2年間24冊を出して発行中止となりましたが、雑誌の中身は『朝鮮語を学ぼう』という単行本として生き残っています。この本を超える参考書は現在もまだ現れていませんが、この組版が月刊誌以上に驚異的です。

あれから13年、現在のKBSの技術ははかりきれないことでしょう。

基礎ハングルの創刊号(上)と最終号(下)



再発刊できることを期待します！  
KBS社員一同

# KBS 30周年を祝して

## さらにグローバルな展開を期待

株式会社 千代田マシナリー

代表取締役社長 古賀 健一郎



国際的な印刷企業として発展を続けているケイビーエス株式会社が新年の一月に創業30周年を迎えられたことを心からお祝いを申し上げますとともに、多言語同時電算出力システムなどの開発により

新しい企業展開をされている、高仁鳳社長をはじめ社員の皆様に深く敬意を表すものであります。1968年に創業された御社は、電算写植機の導入により独自のシステムを構築、82年には世界初の電算写植によるハングル文字組版を開発されたのを皮切りに、84年にはこれも世界で初めての四力国語同時電算出力に成功され、その後も相次いで多言語の開発を進め、現在では20カ国以上の多言語印刷を実用化し、国際化へいち早く対応されておられることは、21世紀へ向けての新しい企業の一つの方向を示すものでありましょ。今後も高社長の信条である「なせばなる」「共生」をもとに、さらにグローバルな展開で大きく活躍されることを祈念いたします。

## ソフトやシステムの説明にホノボノと



ケイビーエス(株)様の創業30周年、まことにおめでとうございます。

日頃、高社長とは公私共に親しくしていただいております。業界では、長年にわたり公報委員長として、会報の定期刊行を担当していただき、そのたゆまぬご苦労にいつも感謝しております。

さて、高社長は趣味がパソコンで、夜遅く迄楽しそうにキーボード・マウスをさわっているので、時折私も訪ねてみるのですが、たえず新しいソフトやシステムの研究をされていて、私に笑顔で説明してくださいませ。私は、その内容を理解するより、高社長の説明の仕方が楽しくて、つつい引き込まれてしまい、ホノボノとした気持ちで帰る事が多かったものです。最近、お医者さんから減酒を申し渡されている由、少し心配ですが、「体が一番」気を付けて下さい。

最後に、長年側面からケイビーエス(株)を支え

大阪DTP協同組合

理事長 新井 明夫

てこられた奥さま、健康に留意されますこと、御社の今後ますます発展されることを祈念いたしまして、お祝の言葉とさせていただきます。



大阪DTP協同組合からの韓国旅行のとき、左端が私新井、その隣が高社長

## KBS創業30周年によせて



創業30周年、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

30年前と言えば小生もKBSの高社長と同じ大学を出て教師としてスタートした年であ

り、小生にも少し商才があったならば今頃はKBSの社長は高仁鳳氏ではなくして小生であったかも知れないと思うとなおのこと感慨深いものがあります。と申しますのも、ある新聞のインタビューで高社長が、実は張成秋と一緒に出版社を営もうと将来を語りあったものだと言っておられましたがそれは本当の話で、そのとき会社の名前までお互いの名前から一字ずつ取ってつけたものを考えておたぐらいです。それが諸々の事情により小生は教師の道を歩むことになり、高社長一人印刷所を引き受けてやることになったのです。結果的には正しい選択であったと思っております。

思い返せば、教会の機関紙を発行するためにあった僑文社という小さな小さな印刷所を引き受

建国高等学校 校長 張 成 秋

けられて、従業員というのは高社長ご夫妻だけといった零細企業そのものであったものを、今日のKBSにまで発展させた高社長の手腕というか、ハングル印刷の灯を消してはならないという思いから血のにじむような努力をして来られたことに対してただ頭が下がるのみです。また、高社長に勝るとも劣らぬ奥様の内助の功、というより先まさに二人三脚で頑張って来られた奥様の力があつたからこそ今日のKBSがあるとも思っております。おそらく高社長は一生奥様には頭が上がりぬことでしょう。

奥様の貢献度ははかり知れないものがあるわけですが、それにしても高社長の研究熱心さ、新しいものを積極的に取り入れようとする進取の気性、やればできるという自信と勇気、そして人あたりのいい性格、これらは持って生まれた天分だとは思いますがすごいと思います。

そういうところがあつたからこそ印刷会社としては決して大きいとは言えないKBSに20カ国にもおよぶ言語を駆使しての多言語印刷を可能ならしめたのではないかと思います。またそこには利益を度外視した世界文化の発進地にしようとする高社長の意気込みがひしひしと感じられます。

願わくば高社長にはいつまでもご健勝で、これ



大阪経済大学時代の高社長(左)と私

からもどしどし新しいものを取り入れながら、とりあえずはアジア文化の発進地としての地位を固めて行ってほしいと思います。

最後になりましたが、KBSの社員の皆さん、弘報紙「ナルゲ」を毎回数待ちにして楽しく読ませて頂いております。これからますます充実した「ナルゲ」をつくって下さい。社員皆様方のますますのご健勝とKBSの限りないご発展を心からお祈り申し上げます。

# KBS 30周年を祝して

## KBS의 심벌

### [다언어 가족의 웃음]은 지구촌의 새싹

의사표현과 전달에 있어서 말이라는 수단  
은 참으로 편리하다. 그러나 그것은 사용하는  
말이 서로가 통하는 사람들끼리의 이야기  
이다. 국경을 한발짝 넘어선다든지 외국인들  
과 만났을 때는 반드시 그렇지 않은 않다. 여  
러 말이 있기 때문에 오히려 불편하기 짝이  
없다. 나는 날 때부터 어학 게으름뱅이이라서  
말같은 건 아예 없애버리고 모든 사람들이 손  
짓 몸짓만으로 의사 소통을 할 수 있다면 얼  
마나 좋을까라는 터무니없는 생각을 해보  
기도 한다.

김포공항이나 나리타 공항, 간사이 공항에  
서 낯익은 사람 모양으로 출입국 관리 직원들  
의 얼굴을 뚫고리며 바라보는 것도 언제부  
터인가 모르는 사이에 버릇이 되었다. 소언어  
의 등장과 대언어에의 통합, 모어와 모국어,  
국어와 조국어, 번역과 통역, 인터넷, 인트라  
넷 등등 증열거리다 보면 멀리서 고인봉 사  
장의 얼굴이 떠오른다.

1960년대도 다 저물어가는 어느 겨울, 우  
리말 연합장 인쇄가 인연이 되어 만나게 되었  
다. 다음은 월간(통일)이라는 통일이론전문  
지의 우리말판 발행이 우리의 인연을 더욱 깊  
혀 주었다. 나의 일생을 두고 지우려 해도 지  
워지지 않는 우리말이 맺어준 소중한 만남이  
었다. 시간만 있으면 이야기를 나누고 토론  
하고 의논도 했다. 어느덧 30년이란 세월이  
예고 없이 흘렀다.

그동안 나도 많은 것을 배웠다. 고인봉사장  
덕분에, 우리말 덕분에, 나아가서는 언어란  
것 덕분에.

한글미치광이라 놀렸을 때의 고인봉사장  
의 빙그레 웃음에서 집념을 느꼈다. 한글사  
식 전산화와 다언어 인쇄 시스템 개발에서  
플러스 발상을 흠뻑했다. 무엇이든 가능하다  
는 KBS의 사훈에서 개척이 바로 즐거움  
이라는 것을 깨달았다. 워드프로세서에서  
인터넷 길라잡이까지 익히는 길을 터 준 것  
도 고인봉사장이었다. 둘이서 때로는 밤을  
새우기도 했다. 어떤 때는 초등학교 여선생  
같은 친절인 인격에 감명했다.

바야흐로 다언어 시대. 삼천이다, 육천이  
다 외쳐대는 수 없는 민족, 그들 사이에서 확  
자지컬 아우성치던 수 많은 언어들 이 이제 인  
터넷 마당에서 흥겨이 노래하고 두둥실 춤추  
며 즐기는 개성시대가 눈앞에 성큼 다가왔  
다.

이 개성시대에 대비한 고인봉사장의 다언  
어 시스템 구축을 위한 외로운 땀은 내가 알  
기로는 못사람들이 달콤히 잠들어버린 고요  
한 밤에 남모르게 흘리었다.

청산은 나를보고 말없이 오라하고  
창공은 나를보고 티없이 살라하네  
탐욕도 내던지고 성냄도 벗어놓고  
물같이 바람같이 살다가 가라하네

서울 인사동 골목, 옛찻집 벽에 걸린 시귀  
에서, 언제나 자금이 쪼달리면서도 밤낮없이  
도전하는 고인봉훈에서, 케이비에스 재팬의  
다국적 다언어 가족의 밝은 웃음 속에서 21  
세기 지구촌 시대의 청빈의 새싹을 찾았다면



말이 조금 지나쳤을까?

입은 빼뚫어져도 말은 바른대로 하렸다. [고  
인봉의 사나이다운 도전이야말로 모든 말이  
모든 사람에게 편리하게 쓰여지는 다언어시  
대 개척에 위대하게 공헌했다]고.

구질구질한 말이 오갈 필요없는, 서로서로  
손잡고 이심전심으로 더불어 사는 다언어시  
대가[암, 그렇지. 그렇고 말고, 지구촌장] 빙  
곳이 웃으면서 창밖을 손짓하고 있지 않는  
가.

1998년 밝은 아침을 맞이하여  
자인 지구촌장 김봉신

## KBSのシンボル

### 「多言語家族の笑顔」は

### 地球村の新芽

意思の表現と伝達において、ことばという手段  
は非常に便利である。しかし、それは使用すること  
ばが互に通じる人どうしでの話だ。国境を一步  
越えたり外国人と出会ったときは、必ずしもそう  
は限らない。たくさんのことばがあるためかえて  
不便でしかたがない。私は生まれつき語学怠け  
者で、いっそのことことばなんかはなくてすべて

## さらなる発展願う

西田 佳文

背の高い純朴そうな少年がピョコンと頭を下げ  
た。「高仁鳳といひます。よろしく願ひします」。こ

の出会いから早や30数年の歳月が流れた。  
当時、私は中部の日報に勤めていたが薄給

の駆け出し記者で生活が苦しく、よせばいいのに  
思い切って大阪の業界誌に転職した。



業界誌の時、後列左から3人目が高君、右端が私西田

現在の二人。忘年会で。

担当は月刊3誌の編  
集整理部。締切りが迫  
ると割り付け作業は深  
夜にまたがり こんなに  
忙しいところなら来な  
ければよかったと投げ  
だしたい気持ちになっ  
たこともしばしば、ぐら  
つ心を支えてくれたの  
が実は彼だった。  
とにかく仕事に取り組  
む姿勢が前向き、こん  
なことがあった。  
編集の雑用ばかり与

# KBS 30周年を祝して

の人が身振り手振りだけで意思疎通ができたらどれほどいいだろうと、とんでもないことまで考えている。

金浦空港や成田空港、関西空港で気を失った人のように出入国管理職員の顔をじっと見つめるのもいつの間にかくせになった。小言語の登場と大言語への統合、母語と母国語、国語と祖国語、翻訳と通訳、インターネット、イントラネットなどと喧えていると、遠くから高仁鳳社長の顔が浮かびあがる。

1960年代も暮れゆくある冬、ウリマルの年賀状の印刷が縁で出会った。次は月刊『統一』という統一理論専門紙のウリマル版の発行が私たちの縁をより深めてくれた。私の人生で消すに消せないウリマルが与えてくれた大切な出会いである。時間さえあれば話し合い、討論し、意見も交わした。かれこれ30年もの歳月が流れた。

その間、私も多くのことを学んだ。高仁鳳社長のおかげで、ウリマルのおかげで、そして言語というもののおかげで。

ハングル狂いとかかわれた時の高仁鳳社長のにっこりと笑うその顔に執念を感じた。ハングル写植電算化と多言語印刷システムの開発からはプラス思考を盗んだ。やればできるというKBSの社訓から開拓がいかに楽しいもののであるかを悟った。ワープロの打ち方からインターネットの手引きまで案内してくれたのも高仁鳳社長だった。二人で時には夜を明かしたこともあった。あるときは小学校の先生のような親切な人格に感銘した。

もはや多言語の時代。三千だの、六千だのといわれる数多くの民族。その中でひしめきあっていた多くの言語が、いまインターネット広場で楽しく歌い、踊りまわる個性の時代が目前に迫ってきた。

この個性時代に備える高仁鳳社長の多言語システム構築のための孤独な汗は、私の知る

限り皆が甘い眠りに浸っている静かな夜、人知れずに流れた。

青山は私に黙って来いと言い  
蒼空は私に恥なく生きようとささやく  
欲ばらず、怒りさえ脱ぎ捨て  
水のように風のように旅立とうと、さそう

ソウル仁寺洞の路地、古茶房の壁に掛かっている詩の中から、いつも資金に困っていても昼夜問わず挑戦する高仁鳳魂から、また、KBSの多国籍・多言語家族の明るい笑いから21世紀地球村時代の清貧の新芽を見つけたとすれば言い過ぎだろうか？

口は裂けてもものは正しく言うべし。「高仁鳳の男らしい挑戦こそすべてのことばがすべての人々に便利に使われる多言語時代の開拓への偉大な貢献であった」と。

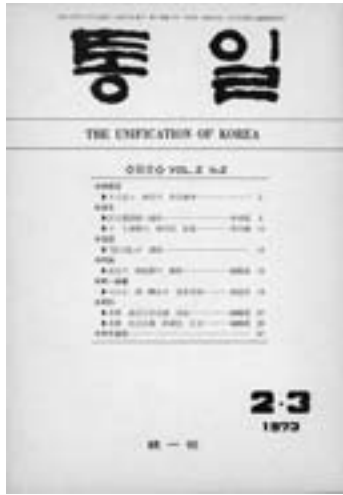
ややこしいことばなど要らない、互いが手を取りあい以心伝心でもと暮らす多言語時代が「そう、そうだよ。そうだと、地球村長」微笑みながら窓越しに手を振っているのではないか。

1998年明るい朝を迎えて

自認 地球村長 金奉信

## KBS略歴

- 1968年 1月 現社長、高仁鳳が僑文社を買受け、本格的な活版印刷所としてスタート。
- 1975年 1月 NHK国際局より、韓国向け日本語テキスト印刷を受注。
- 1981年12月 写植機メーカーのモリサワ(大阪)へハングルの電算化を提案、共同研究を開始。
- 1982年 9月 ハングル電算写植の入力校正機、第1号機を完成導入。
- 1984年 1月 三修社(東京)より月刊誌『基礎ハングル』の組版を受注。
- 1984年 4月 末広バルブ製作所(大阪)の会社案内で、日本語・中国語・韓国語・英語の4か国語を同時電算出力する。世界初。1984年8月 成甲書房(東京)の『韓訳 万葉集(1)』を完成。引きつづき(2)(3)も完成。
- 1985年 2月 東京都文京区に東京支社を開設。
- 1985年12月 角川書店の『朝鮮語大辞典』が完成。
- 1987年 8月 社屋を一部拡張。リョービ・RECSシステムを導入。
- 1989年12月16日 株式会社に設立登記。社名をケイビーエス株式会社に変更。
- 1990年 1月 1日 ケイビーエス株式会社として、新しくスタート。
- 1991年 7月 韓国ソウル支社を開設。
- 1991年 7月 マッキントシュを導入。
- 1992年 4月 MAC部発足。
- 1992年 4月 タイ語会話の本(日本語混植)をMACで完全版下化に成功。
- 1993年 9月 MAC多言語イメージセッター導入。
- 1994年 7月 日本経済新聞(7月20日付)にKBSの多言語印刷システムが紹介される。
- 1994年10月 月刊誌『経済界』にKBSの多言語印刷システムが紹介される。
- 1994年12月18日 朝日新聞にKBSの多言語印刷システムと共に高社長が紹介される。
- 1995年 2月 大阪府発行メディカルパスポート7か国語(日、英、中、韓、スペイン、タイ、タガログ同時出力)
- 1995年 6月 KDD発行 タイ語、ベトナム語、会話の本の制作組版。
- 1995年 9月 2台目のMAC多言語マルチスクリーンイメージセッターを導入する。
- 1995年12月 インターネットチーム発足。
- 1996年 1月 ホームページ開設
- 1997年 1月 「済民日報日本版」インターネットによる、組版制作。
- 1997年 4月 高品質イメージセッター富士写真フイルム製LuxSetter5600導入。B2ワイドの多言語出力OK。同時に同じリップで出力可能な多言語カラープリンターを導入。
- 1998年 1月 30周年を迎える



えていたところ「私もレイアウトさせて下さい」ときた。とりあえず業界短信欄の見開きページをやってもらうことになったが、始めは思うようにいかない様子。しばらくして「あのう漫画を入れてよろしいか」一瞬、私は???。まあ、そんなスペースを作っても悪くはなからうとOKしたところ、時事漫画に似たようなハコモノを書いて穴埋めを完了。彼の非凡さを認識させた一コマである。以来、彼と2人3脚でその後の作業はスムーズに進行した。

その彼が独立してここに創業30周年。しかしこれから50年、100周年と社業を発展させてほしいものである。特筆すべきは林芳子専務の「内助の功」を見落としてはならない。

# ケイビーエスつれづれ記

## いむ ばんじゃ

30年前(1967~1968)

1967年の大晦日も日が暮れて、夫がやっと給料をもらってきてくれました。ほとんど売ってしまった市場で、結婚して初めて迎える正月の買物をしました。

新年から僑文社を買い受けて、自分たちですることになったということでした。買受額は100万円で私たちが住んでいた瓢箪山の中古住宅を売って60、それに充てました。工場は西成教会の裏庭にあったバラックで、土地建物については何の権利もありません。活字1式、手差し機1台、組版道具1式それと僑文社という名前を譲り受けたのです。

新しくスタートした1968年の3月に長男が生まれました。その頃のこと思い出すのは、新日本工機から韓国の工場のための200頁位の書類の印刷を受注したことです。

今ならワープロ入力し、レーザープリンタで出力し印刷すればできるのですが、当時はハングルの活版印刷なので組版だけでも大変です。活字も足りず1版1版刷りながら終わったものから活字をぬいて、次の版に入れて刷るといふ具合で幾晩も徹夜しました。けれど友人たちもよくつきあってくれました。ぎりぎりに来て、5月の連休の飛行機で担当者の方が印刷物をもって行かれました。僑



文社最初の大仕事としてなつかしく思い出します。

1年半後、教会が建て直されるときに桃谷の義父の家を改築しようやく自前の工場ができました。その時、保証協会から200万円借り入れて建築費は180万円。安住建設が請負ってくれました。桃谷に移ったその12月に次男が生まれました。売上目標額は月30万円でした。

20年前(1977~1978)

20年前といえば、77年1月に桃谷から勝山通の現在地へ移転、但し活版部門は桃谷に残したままでした。というのは、その頃はもう手動写植機、軽オフセット機、製版機が入りハングルトータル印刷システムが整っていたのですが、活版はハイデルのプラテン機で主に結婚招待状、封筒類などを私が文選、組版、印刷をしていました。1月に三男が生まれたばかりで、育児や家事のため活版部門は桃谷にそのままおくことになったのです。

私は結婚前の勤め先で広告宣伝課ということで印刷物に少したずさわっており、又文字関係は性に合っていたようです。文字を拾ったり組んで、

### プラテン印刷機

校正したり、印刷して刷り上げる楽しさは格別です。

又、結婚招待状の注文が多く、そのために来られる同胞の方たちと多少ともふれあえたのも、私にとってよい経験でした。そして、校正も本当にいろいろなことを知るきっかけになったのです。というわけで私は仕事によって勉強させていただいたといっても過言ではありません。

さて、移転した勝山工場では朴禮和オモニが受付、事務一切を切りまわし、若い社長と社員4人の母親代りのようでした。

10年前(1987~1988)

受付にはもう北村さんが座っていました。勝山通りの工場は裏側を借りて少し広くなりリョービレックス出力機がガチャガチャと音を立てていま

す。それまではモリサワの本社へ毎日のように出力のため往復していましたが、悲願の自社内出力が可能になったのです。しかも、写研書体が使えるのが大きなメリットなのです。

軽オフは放しましたが、プラテン機は未だありました。その頃には活版も勝山へ移していましたが、ハングルの結婚招待状のためなかなか手放せないのです。愛着もひとしお。黒光りする機体に威厳がありました。

5年前(1992~1993)

1990年1月に僑文社(KyoBunSha)からケイビーエス株式会社へ改組し、91年マック時代の幕開け。社長は寝ても覚めてもマックマック。

92年1月にマック部発足。そのためマックがしごと'のキャッチコピーで社員募集をしました。日英はもちろん韓文、中文、欧文、アジア言語など同時編集・出力可能'マルチリンガルイメージセッター'とはいうものの、マックは気まぐれ。ベン

チャーはつらいね。わがプラテン機は僑文社と共にその役割を終えました。

現在

1997年4月に導入した高社長自慢のB2サイズフィルム出力可能なイメージセッターがでーんと居ずわっています。しかし、なかなかフル稼働というわけにはいかないようです。世は挙げてウィンドウズやらクオークエクスプレスやらイラストレーターなどなどバージョン5.5とか6.0だとか...。私はやっぱりアナログがいいな。

30年という時の長さより好きなことで仕事ができ、その間働いた人たちの生活を守り、仕入先や下請先に迷惑をかけず、得意先に喜ばれ、社会に少し役立つことができたなら、これに過ぎるよこびはありません。

これからもケイビーエスがこの社会で果たす役割を常に考えつつ、あゆんでいきたいと思ひます。

### 僑文社時代の案内ちらし



パソコンPC-9801をさわる高社長

### 刻んだ時は、信頼という名にかえて ～キャッチコピー・デザインコンテスト

ケイビーエスでは1998年創業30周年を迎えるにあたり、KBSを象徴すべくキャッチコピーとシールのデザインを募集しました。その結果、社員皆さんからの数多く素晴らしい作品が寄せられ、国際化時代へのKBSの役割、30周年の誇りと自信を表しているのが特徴でした。

また、当選者の表彰式が去る11月8日の社員旅行先にて行われ、各部門別受賞者が決まりましたが、当選者の選定には一苦勞したそうです。

各部門別受賞者は次の通りです。

・キャッチコピー部門:

最優秀賞 マック部 山本裕治

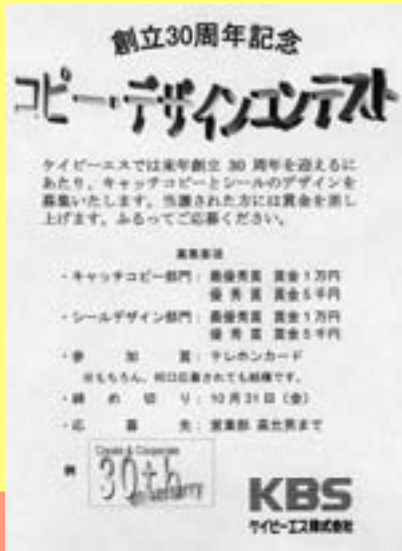
優秀賞 マック部 山本純子

・シールデザイン部門:

最優秀賞 該当者なし

優秀賞 マック部 伊勢木靖子

優秀賞 マック部 志方正美



## 『ご苦勞様でした』忘年会

総務部 鄭址弘

12月12日(金) 韓国料理の福一で忘年会が催されました。

前年と同じ場所でしたが、評判がよかつたらしくて今回も同じ場所で開かれ、一年がよけいに早く感じました。

この一年、皆さんの体が太ったのか去年より場所が狭く感じられましたが、辛い韓国料理は一年間の悪かった事を忘れるには充分でした。

今年は例年にないめまぐるしい経済情勢ではなかったかと思いますが、むしろ業績を伸ばすことができたのはやはり社員皆さんの日々の苦勞があつてこそでしょう。

乾杯!!!!今日は楽しく飲みましょう.....

さらに宴会を盛り上げたのは幹事である二人の山本さんが用意したクイズゲーム「動物農場」は誰もみた覚えがない動物ばかりで非常に楽しかったです。

ゲームの後、クイズの入賞者と97年度優秀社員賞がそれぞれ忘年会幹事と社長から手渡されました。

去年一年社員の皆さん、忘年会の幹事さんご苦勞様でした。今年は創業30周年、今年ももっと良い酒が飲めるように頑張りましょう。

年間皆勤社員賞

翻訳・データ部 朴禮和

総務部 北村高子

MAC部 志方正美

特別賞 伊勢木靖子(時刻のお知らせご苦勞様)

ゲームの最優秀賞を山本君から韓裕美さんへ手渡す



### キャッチコピー・デザインコンテストに応募された内容

30年。  
10957日。  
946684800秒。

多言語でキュービット!!  
遠く、長く、言語でつづる数々の足跡  
思いが伝わるうれしさの瞬間、つくりつけます  
言語で生み出す国際交流

これからも  
たくさんのご言葉を  
うみつづけます

世界のかげ橋、KBSは30周年を超えました。  
言語越え、KBSは30年

言葉にいのちがあった

多言語のKBS  
多言語印刷ならKBS

創立以来30年  
ハンゲルのKBSから

多言語のKBSへ  
KBSは今、変わります。

KBSの新たなスタートラインなり  
K = 慶祝: 三十周年の新たなスタートラインを祝う  
B = 美意識: 自分自身をレベルアップさせ、多言語の世界にリードする。  
S = エスプリ: 創業精神の初心を貫き、今までの素晴らしいさを永遠に発揚する。

私達が伝えてきたのは、「こころ」です。  
人と人、つなぐ架け橋30年。  
ケイビーエスの自信です。  
時には「愛情」だって、伝えてきました。  
だって、伝えたい。  
これから、あなたの心へ伝えたい。  
ケイビーエスで行こう!  
どれだけの人に会えただろう。  
ひとの数だけ、ことばがある。

30年、ケイビーエスも「オトナ」です。  
伝え続けて30年。

「伝えたい」気持ちにこえて30年。  
いま、30年の誇りと自信。  
Yes, 30years

KBSは30年間  
多言語をみつめてきました。  
見知らぬ文字で困ったら  
KBS

Thanks!  
30years

いろ～んな顔。いろ～んな言語

多言語根をはり先客万来  
for 30th

KBS:印刷の道  
一筋研究30年  
多言語根張るネットワーク  
われらのオアシスKBS



# 夏の夕べ 花火&焼肉大会

KBS恒例の夏の夕べ、花火&焼肉大会が去る8月30日(土)午後5時から、淀川の河川敷で行われました。

当日は天候にも恵まれ、木原社長さんをはじめ、沢山の方々が集い(30数名かな) 歓談をしながら焼きたてのお肉を食べたり、お集まりいただいた方の紹介やKBS社員が自己紹介をし、夜が更けた頃にメインの花火やお待ちかねのすいか割りなどを子供たちを中心に、大人たちも十分に楽しみました。

去年までは、火をおこすのに時間がかかり、そのため、お肉を焼くにも時間がかかりましたが、今年は強力な助っ人湯川くんを筆頭に、

いろいろな人のお陰で早くできました。湯川くんには来年から「焼肉専門人」として来てもらうことになりました。

そして、私伊勢木は司会ということもあって、あでやかな(?)ゆかた姿での参加でしたが、いかがでしたか?、来年も楽しい花火&焼肉大会にゆかたで参加したいと思いますのでご期待ください。

最後になりましたが、毎年おいしい料理を用意して下さる林専務、本当にありがとうございます。

ゆかた姿での司会者

(MAC部 伊勢木靖子)

をつけて「ピーュー。シュー。シュー。」「バーン。」「ヒュー〜。」二こめはでかいので、ぜったいにとうろと思っははしていきました。ぼくのはしるスピードとパラシュートのおちるスピードはほぼ同じ、はしてはして。とれました。ぼくはあまりうれしいので「ヤッター。」と言いました。一こめのパラシュートと同じ場所におくと、二つがからみました。とれたときの気持ちは体であらわせないくらいとってもうれしかったです。

## 上間 康弘

8月30日ぼくの家族とお父さんの会社の人で花火大会をしました。お父さんが車で先に行っていたので、ぼくたちは電車でいきました。花火をした場所は、淀川のどてでした。ぼくたちが淀川についた時は、すでにやき肉セットで肉がやかれていました。ぼくたちは、まず晩ごはんを食べました。そして花火をしました。ぼくは、ロケット30連発をやりました。実は、やった事が1度もなかったので、やけどしないかなーと心配しました。山本ゆづじに「ちゃんに火をつけてもらって、つつを上に向けて花火が出るのを待ちました。2秒ぐらいたつと、「ドーン」と一発目が出ました。また2秒ぐらいたつと二発目が出ました。ぼくは、はじめの3発はビビったけど5発目ぐらいでなれてきました。つつには、30ぱつと書いてあったけど、実際には26発しか出ませんでした。おわってからみんなで、「不良品やな〜」と言って笑いました。すごく楽しかったです。また行きたいです。

## 湯川直樹

あつ、どうもお久しぶりでございます。バイク便の兄チャンの湯川でございます(ウソ!)山本純子さんの知人ということでKBS恒例「夏のバーベキュー&花火大会」に招待して頂きましてありがとうございました。バーベキュー自体、とても久しぶりでした。また、特製手作りタレに漬け込まれた肉はとてもおいしかったです。あれだけの肉を(味・量共に)食べたのは何年ぶりやろっ

という位いただきまして、おかげで今年の夏は夏バテ知らずで乗り切れました。(といっても今までも夏バテをした記憶はあまり無いが)また焼き係を「恐らく名焼き係がいらっしゃったろうに」やってしまいまして、悪かったかなと思ったりしました。

皆さんはフレンドリーな方が多く、とても心地良い時間を過ごさせて頂きました。きっと会社内の雰囲気もいいんでしょうね。今後もこのような機会があれば是非参加させて下さい。

では体には充分気を付けて仕事に遊びに頑張ってください。本当にありがとうございました。また会いましょう。では!



## 上間 年紘

「バーン。」

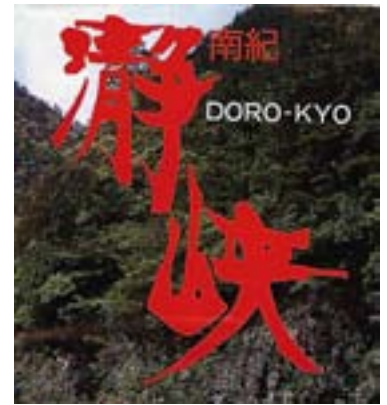
「ヒュー〜。」

ぼくの好きなパラシュート花火をうちあげてどりにはいりました。二こめありました。ぼくはとれるかしんばいでした。一こめは一つちゃん、とれたけど小さかったからさんねんです。二こめをうちあげるじゅんぴをして、火

## うえま ゆうすけ

はなびたいかいおもしろかった。とくにパラシュートがおもしろかった。ゆうにちゃんたたかっっておもしろかった。すいかわりするまえにおとしてわれたのでさんねんだった。ありがとう。またこんどもいきたいな。





# 楽しかった社員旅行

## ~11月7~8日、紀伊勝浦温泉



30周年シールデザイン部門優秀賞の志方さんと伊勢木さん

皆さん、和歌山南紀勝浦への社員旅行はいかがでしたでしょうか。

普段、大都会(?)大阪市生野区で、コンピュータに向かってお仕事をされている皆さんにとって、那智の滝、那智見晴台、青岸渡寺、瀬峡を観光し、自然にふれ、海を見ながら温泉につかり、美味しいものを食べて、リフレッシュできたのではないのでしょうか。

今回、私は旅行の幹事を任されたのですが、旅行の行き先を定める時期は仕事が忙しくて、人任せになってしまったので、せめて宴会だけでもがんばらなくては...と、いろいろ小道具を準備させていただきました。

その小道具をつかって「KBS社員シークレットクイズ」(それぞれ、皆さん一人一人に関する問題を出して、全員に×の札を上げてもらい、その場で実際に答えを実演してもらう、というクイズ)を行いました。皆さんには、腹筋、一気飲み、フリースローなどをしてもらったり、ウエストのサイズを測らせてもらったり、カメラ目線の写真を公開したりと、一生懸命答えを実演していただき、おかげで大盛り上がりのお宴会となりました。皆さん、ご協力ありがとうございました。



また、機会があれば、今回できなかった旅行先の企画の方をしたいなあと思っていますので...(ただし、私の企画する旅行は、とてもマニアックですよ、フッフ)

(制作部 韓裕美)



## 社員旅行に参加して

(翻訳・データ部 黄文宣)

今回の社員旅行は南紀勝浦ということで以前から一度は訪れたいと思っていただけに「いいぞっ!」と小躍りしながら喜んでしまいました。しかも、写真部に所属している私としましては購入したてのカメラを片手にうずうずしていた矢先のことでもあります。

行く前から、那智の滝はああかしら、こうかしら、こう撮りたいわなどと一人、思いをめぐらせていたのです。ところが私の想像の方が先行して、実際の滝とは少し違うものだったのですが、それにはその趣もあって、もちろん私もこころざしばかりにバシャッバシャッとやりました。

その日の宴会でも「さしみづくしの豪華な料理」もさることながら幹事の韓裕美さんと高允男さんにはずいぶん頑張っていたいただき、おかげですっか

り楽しませてもらいました。本当にありがとうございました(どうして荷物が多かったわけですね)

翌日はさすがの私も昨夜の夜ふかしがたたいて、腰は痛いし、ねむたいしで、へとへとだったのですが(若いからといってはしゃいだのがいけなかったのかしら)なにはともあれ、生野へ帰ってきたときはフウという感じでした。

今度の旅行では、つかの間、仕事のことも忘れて楽しい時間を過ごすことができ、韓裕美さんの小道具作りの夜なべも甲斐あるものになったのではないのでしょうか。



# 30年と社内報

## MAC部 志方正美

1998年1月1日にKBSは30周年を迎えた。30年という年月は私の生きてきた時間より長い。KBSの歴史といっても、私はまだ3年程しか経っていないので、目の前にある社内報の中をのぞいてみた。

昔の社内報を見てみるとといっても5~6年程前のものだけですが、KBSの進歩がみてとれる。古いものは黒一色で文字もそれほど美しいものではない。また、種類もさほど豊富ではない。それが年を重ねるごとに、より一っそう色あざやかに、そし



て表現豊かな印刷物へと変化していく。おそらくこれがワープロ、手動の機械、電算写植、そしてMACへと移行していった経過ではないだろうか。

また、社内報はKBSの新たな挑戦(実験?)の場でもあったようだ。今では当たり前の3Dグラフィックや写真合成などなど、かなりの苦勞のあとがみえる。写真もデジタルカメラやビデオからの入力など時代にあわせての試みも忘れない。意外なことを当たり前にする。社長をはじめ、なんてチャレンジの好きな人たちなんだろう。たくさんの思いが詰まった社内報。これはKBSのアルバムかもしれない。

今度は、どんな発見ができるだろう。また新しい1ページを積み重ねつづけよう。40、50周年と経ったとき、私のように驚く人を増やすために。

# 鯉釣り

## MAC部 高允哲



で結構時間がかかる。終わった頃には、周りは薄暗く、人もまばら、私一人になっていることもある。そこから何もせず、ただボーっとしてるかという大違い。竿先がブルブルと震えて早くあげると催促をする。フナがかかっているのだ。竿をあげるとやはりフナが釣れている。釣れるのは何であれ結構嬉しいもので、ウキウキしてまた竿を出すのだが、しばらくするとこのフナとのやりとりが結構わずらわしくなる。あまりひどいと竿を3本から2本にした。先ず、餌はミズを使っているのだが、ミズという餌は川ではほぼ万能で、どの魚もよく

釣れるはずの竿先の明かりが2つしか見えない。「おっ」と思っあわてて寄ると、1本の竿が、竿立てにリールを引っかけて倒れている。竿を倒すほどの魚は、「役者」かなマズか鯉である。急いでリールを巻いてみるが、重さは感じられず、早々に巻き上がってしまった。釣針を見ると、途中でポツキリ折られている。狙っている獲物が大きいので糸も釣針もかなり太い。

使っているが、大きな魚がかかっても放っておくと、このように釣針が折れるか、糸が切れる。「ヤツ」の仕業である。私はこの大鯉には畏怖の念を込めて「ヤツ」と呼んでいる。



73センチの鯉のウロコ(実寸大)

夜も深くなるとフナもあまり相手をしてくれなくなる。水温も下がって、動きが鈍くなるからである。私もそろそろ眠くなってくのだが、念願の鯉の姿を見るまでは、と辛抱強く竿先をジッと見つめる。不

釣りにいろいろある。船釣り、磯釣り、投げ釣り、サビキ釣り。最近ルアー釣りが流行っているが、私はもっぱら鯉釣りを好む。「コイ」は魚の中でも有名だが釣りの中ではかなりマイナーで、書店に行っても鯉釣りの本なんてのはまず見あたらない。私が鯉釣りを好む理由は、お金をかけずに大きな獲物が釣れるということだ。一回の釣りで2000円くらいしか使わない。竿やリールはもらった物や、ガレージセールで安く買った物を使っている。交通手段はもっぱら自転車を使うので交通費はタダ。

さて、私のホームグラウンドは大和川。「えっ?」と思うかも知れない。そう、一級河川では日本一汚いあの「大和川」なのである。釣った魚は間違っても食べてはいけれない。春の温かくなってきた頃や秋の涼しくなってきた頃の休みの前日、無性に釣りがしたくなって、仕事が終わると家に帰ってそそくさと用意をし、大和川へと赴くのである。片道40分、自転車をこいで現地に着くと、フナ釣りのオッサンやルアー釣りの少年がそろそろ帰ろうかという頃である。おもむろに竿を出し、リールをセットして、餌を釣針につけて「エイヤ」とかつて何度も投げ込んだポイントへとむかって放り込む。たいいてい外れる。気を取り直してもう一度。

竿はたいいてい3本立てるが、3本投げ終わるま

釣れるのだが万能が故に狙っている魚がなかなか釣れないという欠点を持っている。

周りが真っ暗になって、人が誰もいなくなった頃、竿先には、夜でも見えるように蛍光塗料を施した棒をセットする。と、いきなり、竿がガクンと倒れる。「来た!」今までと違うアタリに急いでリールを巻く。しかし巻いている途中で喜びは落胆に変わる。勢いが無い。フナだ。あげてみると30センチを越える大きなフナで、重たそうに体を揺すっている。大きい魚が釣れて嬉しいのだが、こちらは鯉だとばかり思っていたので、ガッカリする。私はこういう大きいフナのことを「役者」と呼んでいる。ちなみにこのフナは放射性物質でも食べているのか、かなり大きくなり、最高は45センチを記録している。しかも大きくなる種類のゲンゴロウフナ(へらフナ)ではなく、マフナである。念のため。

暗くなるとしばらくするとお腹がすいてくる。竿が気になるが、ちょっと買い出しに出かけて帰ってくると3つあ



# 中国でINTERNETを遊ぼう!(北京編)

翻訳・データ部 李凡



私の友人は海外青年協力隊に入って、大連で日本語を教えることになった。彼は行く前に私にたずねてきた。大連でインターネットという手段が利用できるかどうかを教えて欲しいと。当時私自身も

## 想不想在中国玩INTERNET?(北京篇)

前些时候,有一个学习中文的学生参加了海外青年协力队,到大连去教日语,临行前问我,可不可以在大连加入INTERNET,和日本的亲朋好友保持联系。大连的事情我不太了解,当时也没有相关的资料,只知道大概这类业务在邮局办理,就劝他到了大连以后去邮局问问,好在他的汉语说的不错,去问也没甚么困难。他去了以后,好象一直很忙,也不知道这件事办得怎么样了。

最近,又有朋友去中国,也来问能不能在那边儿上网。看来大家似乎都想亲身体验一下异国的INTERNET情景。在中国,加入INTERNET很方便,在北京、上海、广州等大城市里也开有很多“网吧”,一到傍晚或是节假日,就会有许多的INTERNET爱好者前来享受,大家管那些陷在里面不能自拔的人叫做“网虫”。但是毕竟到中国的外国人想自由自在地利用

インターネットの初心者であり、大連のことも良く分からなかったの、「向こうではそういう業務は郵便局でやっているんですけど、中国語ができるから、その場で聞けば?」と彼に提案した。

先日、もう一人の友人が来て、同じく中国でのインターネット事情について私にたずねてきた。やはり、誰でも一度は異国で、インターネットを体験してみたいと思っているようだ。実は、中国でもインターネットに入るのはすごく簡単。特に北京・上海・広州などの大都市にはたくさんのインターネット・カフェがある。休日または夜になると、マニアたちが集まってきて、新たな世界を楽しむ。それにはまっている者ば「網虫(ワンチョン、ネット虫)」というあだ名がつけられているほど。外国人の場合は、自由自在にインターネットを利用したいなら、やはり自分の名義で登録したほうが一番だが、言葉の不便、情報の不足等によって「自投羅網」のルートはなかなか見つからないの

INTERNET还是得自己上网,可是出于语言等障碍或是信息不足等缘故,难以找到“自投罗网”的门路。

在北京,最有名的因特网接洽商可以说是东方网景(East Telecommunication Ltd., Beijing),东方网景以“更少的钱、更多的上网时间、更方便的服务网点”的口号,吸引了众多的INTERNET爱好者。如果想在北平当一个“网虫”,不妨先和东方网景联系一下。

办理手续需在被称为北京“秋叶原”的中关村门市部或海淀区北三环西路的高德写字楼办理。除此之外,还有二十九家邮局受理登记业务。当然了,最好的还是自己去看一下东方网景的网页(<http://www.east.cn.net>),简直是琳琅满目,有意思极了。

も事実。

北京では、「東方網景」(East Telecommunication Ltd., Beijing)というプロバイダーがもっとも有名。そのきっかけは「より少ない金額、より多い時間、より便利なAP」というスローガンを打ち出したため、短時間で北京市のインターネット利用者の大半を吸収したからだ。もし、北京で「網虫」になりたいと思うならば、「東方網景」に入るのベストな選択といっても過言ではない。

手続きは北京の秋葉原と呼ばれる中関村店または海淀区北三环西路高德オフィスビル、そのほかに、市内の29個所の郵便局でも受付している。まあ、何れも自分の目で「東方網景」のホームページ(<http://www.east.cn.net>)で確認した方が、おもしろいで～～。



意に竿が音をたてて倒れる。「あっ、みるみる竿は引っ張られ、リールの所で竿立てに引っかかる。急いで竿尻をつかんでエイと竿を立て、リールを巻くいや、巻けない。ものすごい力で引っ張られ、自分の体が川へと引きずられる。「間違いない。鯉だ!」鯉は釣針に引っかかると沖に向かって全速力で逃げる習性がある。あわてて糸をリールから出してやると、みるみるうちに糸が減ってゆく。急いで糸を出すのを止めて再び竿をあおる。あまり糸を出すと鯉が自由に動けるようになって岩などの障害物に糸を絡めるのである。この川底には岩や大木などの障害物以外にも自転車や粗大ゴミなどがゴマンと沈んでいるからのんびり魚を泳がせて疲れるのを待つなんてことはできない。かといってあまり引っ張りすぎると釣針が糸がやられてしまふ。この辺の駆け引きが鯉釣りの難しいとこ

ろでもあり、面白いところでもある。更に糸を巻き、竿をあおる。10メートルほど沖で「バシャン」という音が聞こえた。

大きい。自己最高記録かも知れない。高ぶる気持ちを押さえて冷静にリールと竿を操る。魚が急に左へと走り出す。あまり引っ張りすぎないように慎重に糸を巻いてゆく。次は右だ。もし昼間なら前にいる釣り人達に謝しながら竿をあげてもらわないといけないところである。だいが岸近くに寄ってきた。ほんの数メートル先の水面にヘッドライトに照らされた大きな鯉の姿があった。観念したのかゆったりと泳いでいる。たも網を持ってこなかった。岸まで引っ張りあげて取り込もうとしたその瞬間、鯉は派手なジャンプをして再び沖へと走り出した。「しまった、こんな罌を張るなんて。あわてて竿を落としそうになる。糸が出ていかない。引っ張

られて思わず3歩程前へ進む。左足は川に浸かってしまった。ようやく糸を出し、また糸を巻く。魚はかかっているか?糸を切られたんじゃないのか?巻いている内に手応えがある。

よかった。ツイてる。慎重に慎重に糸を巻き、岸へと導く。重い、あまり抵抗は感じられない。おそろささの罌で体力を使い果たしたのである。ようやく、長いやりどりの末にその大鯉を水中から引きずり出した。心臓をバクバクいわせながらメジャーを取りに行き、測ってみると73センチ。わずかに自己最高記録に及ばなかったが歴代3位の大物である。いつものようにウロコを一枚いただいて、その手強かった「好敵手」を川へ逃がしてやる。楽しませてくれてありがとうという感謝の気持ちとともに。

# 『ほんものの空を捜しに。』

## ～衝動的日本脱出・オーストラリアの旅

### MAC部 山本裕治

オーストラリア大陸一周大作戦

特にこれだ、というきっかけは見当たらない。ある日いきなり真っ赤な大地をひたすら走りたい!走らなきゃダメだ!あー走りたい!!と思った。オートバイが好きで、オンロードからオフロードバイクに乗り換えようとしていた頃のことだ。

その頃の僕は、かなり不真面目なコンピュータSEとして、とある東京の銀行のオンラインシステムを構築していた。それは約2年のプロジェクトであり、僕は滋賀の実家を離れることを余儀なくされ、東京で一人暮らしの日々を送っていた。初めての一人暮らしは思ったより快適で、のびのび過ごせることが心地よかった。が、いろいろ一人で考える時間があつたのがまずかつたらしく、また狭い16畳ワンルーム、ユニットバス、ロフト付きのその部屋は、僕の逃避願望をいやがおうにも誘った。「こんなところで小さく生きていてはならない!!見渡す限り何も無いところをどどーっと走らなくては!!」あえて言えば、東京のうすぼんやりした小間切れな空と、毎日のコンビニお弁当の夕食と、永遠に続くかのように思われたあのプロジェクト、そしてこのアパートがそのきっかけを自然発生的に産み出したのかも知れない。

決心してからというもの、僕にしては珍しく、ち密にプランを練り、退職まで2年を要したものの何とかケンカ別れというような事態は避けられ、最後にはいろんな人たちに「行動力のある人ですね」「死なないように」などなど半ば呆れられているのか何だか良く分からない言葉ももらって円満退職、という事になったのだった。

大作戦失敗 / 中止

96年2月20日に退職し、ほどなくして僕は一緒に旅する予定の友だちと共に京橋はツイン21にあるオーストラリア・ビザオフィスに向かった。最近ではかなり知名度の高くなった「ワーキングホリデービザ」の取得申請のためである。それは1年間その国に滞在でき、10週間までの就学、さらに条件付きで就労も可能であるというビザだ。それを取

り、秋は勉強、冬はスキー、春はバイクでツーリング、夏は海!などと僕たちはおおいにはしゃいでいた。1年かけてオーストラリア中を遊び暮らそうという壮大な計画である。

しかしそのオフィスの「お知らせ」掲示板に一枚の張り紙が、それを見た瞬間に目が「..」になり、「ヘッ?」といつもよりオクターブ高い奇声を上げた。横の彼の顔を見たが、彼の目は「..」のまま張り紙を見つめて動かなかつた。

「オーストラリア政府の要請によりワーキングホリデービザの発給数の制限が開始されました。今回の募集分については受付を既に終了し、次回募集開始は7月の予定」

しばしの間のあと、「おいおい、これなににな?」「どーゆーこと?」一気にうろたえる二人となってしまった。ともあれ、受付の人に聞いてみよう。「ワーキングホリデービザはもう申請できないんですか?」すると受付の女性は、全くの無表情で「はい。と、まるで、あほちゃうかあんた今頃。こっちは毎日同じことばっかであんたらの相手なんてしてらんないのよ、まったく。とでも言いたげな冷たい眼で僕を一瞥し、その一声だけで僕をあしらひ、もう次の人と呼んでいて。またポスターに戻ると、なんとたった一週間ほど前に、今回募集分の締め切りとなっていたのだ。なんたる不運。

急激にいい夢から覚めた気分で、二人はしばらく呆然としていた。うわわわー会社を辞めてきてのに!海はスキーはバイクは!!しかし待てよ落ち着け、ワーキングホリデービザは何もオーストラリアだけじゃないではないか、カナダ、ニュージーランドという選択肢もある。ちょうどこのビルの上にニュージーランドの領事館もあったことだし、と二人は冷静に善後策を練る姿勢に切り替えていた。

ところが、僕達にとって長い間の憧れであるあの場所は、どうしても譲れない気もしていた。それは例えれば、カレーを食べたい食べたいと思いつづけて、頭はすっかりカレーモード。そして探し回って漸く見つけたレストランに入り、いざ注文したら「売り切れです!」と言われた時と同じようなも

ので、その時、果たして潔くハヤシライスが食べられるだろうか。これはかなり苦しく、悲しい選択なのである。ビザオフィスから出て、僕たちはふらふらと窓際のほうに向かっていった。眼下に大阪のまちなみ。国を変えるか、あるいは7月まで待つか...。しかし捨てる神あれば拾う神ありだ。「お!?」その時、そのフロアの片隅



に小さな看板を発見した。「エデュケーションオーストラリア」と書かれたそれには「留学相談」という文字があつた。「ちょっと行ってみよう!」フラにもする、とはこういう事をいうのか。考えてもいなかった「留学」を、なんとこの数時間後にはする決断をしてしまうのである。その日そこで、僕たちは6ヶ月間の語学学校留学の契約を結んだのであつた。ビザは学生ビザを取得することとなつたのだ。我ながら英断だ。帰りに飲み屋で「いやあ、たった2時間でツーリングが留学に化けてしまったのお」と言う二人には、だがむしろ喜びが満ち満ちていた。何となく、その方が後々ためになるかも、という気も少なからずしたからだ。バイク代が学費になってしまったが、ホームステイや英語の勉強がその代わりにできる。これはこれで魅力的だ。僕たちは大いにその晩飲んだ(それ以来僕たちは、健康診断をした、ビザが下りた、航空券を買った、雪がふつた、と、事ある毎に飲んでいて)とにかく先が見えてうれしかった。

「はるか」で大きわざ

96年4月20日、僕たちは閑空特急「はるか」の座席についていた。両家の家族に見送られて、まるで新婚旅行に旅立つように草津駅を発つてきたところだった。いよいよだ。その時の僕たちは発狂寸前だった。他の乗客がいないのをいいことに、ガハガハワハワハと大騒ぎだ。ともかくうれしい、うれしくてもうひたすら笑っていた。全身にパワーが漲っていて、友だちに至っては力余って前席の背もたれの部品をひっぺがしてしまつた。ペロンと剥がれたそれを無理矢理また押し込んで、またワハハ言いつづけた。おいおい、とちょっと心配だったが大丈夫そう、僕も負けずにガハガハ言いつづけた。しかし天王寺を過ぎたあたりからさすがに疲れてきたのを覚えている。まるで子供のように、あの時の気持ち思い出すと今でも気持ちが昂ってくる。数年間温めていた夢、若干かたちが変わってはいるが、ともかくいよいよスタートしようとしていたのである。無理もないことだろう。

台湾・シンガポール・そしてシドニーへ

買った航空券は一番安いもので、タイペイ(台湾)・チャンギ(シンガポール)と経由して行ったため、実に20時間も掛かってようやくシドニーに到着



した。飛行機内でも僕たちは相変わらずワハワハガハガハ状態であり、お酒が出るとさらにそのパワーを増し、20時間あった割りには楽に着いたような気がした。うち3時間はシンガポールでのストップもあり、その間に知り合った日本人の女性、彼女も偶然シドニー行きで同じ学校へ行く予定で、帰国後も付き合いがつつくののだが、その彼女を交えてお茶を飲んだりした。猛暑のシンガポールで飲んだ甘くてぬるい「アイスコーヒー」は忘れがたい。そんなこんなで、翌早朝にシドニーに到着したのであった。

空港出迎えが来ない...

シンガポールで出会った彼女は、ホームステイ先のホストマザーが空港に迎えに来ていて、「じゃあ、行って来るわ」と言って若干緊張しつつ、いそいそと行ってしまった。さて、僕たちにはお迎えがきていない。それもそのはず、契約時に「空港出迎え手数料」というのを見て、\$15かなんかの安いものだったが、それを「そんな、その家まで自分で行ったらいいんやろ。それはそれで楽しそうやん!」という両者一致の豪快な一言でケッチたのである。到着ゲートにはそのようにして、たくさんのオーストラリア人ホストが手に名前を書いたボードを持って生徒が出てくるのを待っていたが、当然僕たちを待つ人の姿はなかったわけである。

ちょっとくたびれていた僕たちは、不安もあって、あの豪快な一言を痛烈に後悔していた。こんなに重たいスーツケースを持って郊外の街まで行くんかいな...?

ともあれ市街へ行く。「シティへ行くの?」というお兄ちゃん言葉に誘われるようにしてフラッと乗ったバスは確か\$6で、市営のバスより高かったが、そんな事は当然知らない僕たちはちょっとホッとして席についた。

これが「空」だ!

バスが動き出してすぐに、僕たちは異変に気付いた。「なんか、めちゃ眩しいなあ...太陽の事である。そして空が青い。とにかく青い。「青!」という感じの青なのである。うすぼんやりの青に慣れている目には、強烈な印象だった。これがオーストラリアの空なのだ。この瞬間に、達成感、焦燥感、期待感、不安感、いろいろな気持ちが一斉に沸き上がってきた。友だちも同じ気持ちであったらう。なんとなくだらしく微笑む二人は窓から見えるもの全てに

見入りしばしその知らない世界に酔った。

さて、これから10ヶ月間の生活がスタートする。その間、本当にいろいろなことが起きるが、そんな事ができるとは予想もしなかった事がある。それは、「韓国を知る」ということだった。オーストラリア

のことよ、韓国の事をなぜかよく知る事になるのだ。後の生活については、機会があればまた書きたいと思う



## KBS フォトクラブ始動!

去る9月のある日、翻訳・データ部の黄文宣さんの気まぐれで、KBSフォトクラブなるものが、できました。それをもって、いつのまにやらその活動が第3回を数えていました。

ここでは、記念すべき第1回のときのことに触れようと思います。

参加された方は、一番「唯一?」カメラのことを知っているクラブ会長の山本Yさん、黄さん、志方さん、允哲氏、僕の5名の他に、社員ではない重村さんも、たっつの希望で参加されました。

場所は兵庫県の三田・道場で、当日は素晴らしい秋晴れに恵まれました。各々の足ど先軽く、思い思いに散歩を楽しんでいました。気に入ったシャッターポイントを見つけては立ち止まって、パチリ。そんなゆっくとしたペースで道場駅から40分ほど歩いたところにある、百丈河原で昼食をとったのち、今回のメインである、百丈岩に登りました。「すぐに登れるから、楽勝」と聞いていたのとは裏腹に、

予想以上に急な崖壁を這いあがること数回。たちまち部員たちの疲れと会長の苛立ちは募ってしまいました。

しかし中腹から見た景色で、それもすっかり癒され「頂上からの景色はどんなんやろ?」という期待を持って頂上へ。そして、その期待は裏切られることはありませんでした。今まで何回か道場には足を運びましたが、こんな所があったとは。百丈岩は知っていたのですが、こんなに簡単に登れるものとは知らなかったのです。文字どおりの絶景でした。足下には、今まで僕たちが歩いてきた道が小さく見え、出発地点の道場駅までも見渡せました。ここぞとばかりに、周り中がシャッターを切る音につつまれました。僕は、使い捨てカメラを持っていったが、結局1枚撮っただけでした。

ひとしきり撮って気が済むと、今度は座りこんでの雑談に花が咲きました。山上に吹くやや強めの風がとても心地よく、座りこんだはいいが、そのままみなして動かなく、動けなく? なって、眼下に広がる風景をのんびりと眺めていました。允哲氏の吹くオカリナは、部員たちの気分を一



層よくしました。

2時間以上経ってからようやく腰を上げ、下山。しかし、先頭の允哲氏(方向音痴)がお約束通りに道を間違え、獣道のようなところを下山する羽目になりました。下の方から聞こえる川の音を頼りに、なんとか麓までたどり着いて、部員一同安堵の表情です。その表情をカメラにおさめあい、第1回の写真活動は幕を閉じました。

後日談。

結局第1回のMVP(Most Valuable Photo)は帰りの電車での、部員たちの疲れきった表情を撮った1枚になりました。(「KBSフォトクラブ」はあくまで僕が勝手につけた仮称です。今現在においても、正式名称は決まってませんので、悪しからず。)

(MAC部 高允樹)



# 木曜日はなんの日?

毎週木曜日、日本語教室に通っている。といっても私が日本語を習っている訳ではない。渡日してきた子どもを対象に日本語を教え、共に学んでいるのだ。

このボランティアを始めて、はや3年がたとうしているけれど、参加すればするほどむつかしさが見えてくると同時に、気づかされることも多くなってきた。

教室に来ている子どもたちはみな、勉強が好きでたまらなく、自分から日本語が学びたい、という訳ではなくもちろん私もそうじゃなかった。明日の宿題が終わらないからみてほしいという子もいれば、教科書をよそに紙飛行機をうまく飛ばす方法を考えるのに必死になっているこどももいる。それ故に、往々にして感じるのは、彼らにとって日常生活の中で思いっきりしゃべったり、遊んだり、安心して自分を表現できる場所、雰囲気が少ないのではないかということだ。

一日の大部分は訳の分からない言葉が飛び交う学校で過ごし、台風がくる回数とおなじ数くらい多くテストもやってくる。自分の伝えたいことが言葉の壁、文化の違いによってうまく伝わらないこともよくある。それ故に初めから、そんな困難に打ち勝って意欲的に勉強をしようとしたり、自分のことを知ってほしいと積極的になるこどもの方が珍しいと思う。

そうこうして時が経つにつれて言葉の壁が人に対する壁となって不安な感情を内面化してしまうケースも少なくない。

私が日本語教室でおこなっていることは、こどもたちが抱えている不安を和らげられる環境をつくり出すこと、それを多くの他者と共感すること、今こどもたちが不安に感じていることを本人に具体化させることなどメンタルな面におもきをおいている(もちろん、勉強をしながらですが)、これでは日本語教室ではないと反感がくるかもしれないけれど、もつれた感情がときほぐれたこどもは、表情が軽やかになり実際、持っていた不安が永久的なモノでもなく、ましてや子どもたち自身を否定するものでもない、解消されるものものだという風に気づく。そして自分に素直になれ周りのことに目を向け、意欲的に勉強する機会が多い。こどもたちが思っていることは、一人一人さまざまに私にとっては自分を見直すきっかけをつくってくれることがほとんどだ。

中国から来たある子が私に「先生は日本語がしゃべれていいな」と言ってきたことがある。私はその子に「中国語しゃべれていいな」とこたえた。そうすると自分が言ったことがおかしいことに気づいたようで答えに窮していた。周りに自分と同じ言葉を使う人が少ないと、その言葉に対する価値が低く取られがちでどうしても人数の多さによって判断してしまうこともある。そしてその子は私があたり前に思っていたことをいともたやすく当たり前でなくする要因は環境の変化など様々

## タイ語担当 山本純子

で今現在自分がおこなっていることは、何も普遍的な事ばかりではないということを教えてくれた。

こういうことは数をあげればきりがなく、またこういう当たり前に対する自分の考えがまとまっていないこともあり、毎週木曜日は胸が痛く(悲惨な意味ではなく)また楽しい時間を共有している。

"วันพฤหัสบดีเป็นวันอะไร?"

จุงโกะ ยามาโมโตะ

ทุกวันพฤหัสบดี ฉันไปเรียนภาษาญี่ปุ่นกับเด็กต่างชาตินั้น ฉันเริ่มสอนภาษาญี่ปุ่น 3 ปีก่อนมา ที่นั่น ตอนนั้นฉันรู้สึกโดยตนเองว่า มีความเข้าใจถึงเด็กคนต่างชาตินั้นมากขึ้นกว่าก่อน

นักเรียนที่ชอบเรียนไม่ทุกคน (จริงๆแล้ว เมื่อฉันเป็นเด็ก ไม่ชอบเรียน) เด็กส่วนใหญ่ไม่ชอบเรียน คนต้องทำการบ้านก็มี คนพยายามเล่นกันก็มี

ทั้งนั้นฉันรู้สึกว่าการที่นักเรียนได้มีโอกาสพูดกันเล่นกันกับเพื่อนสนิทไม่มาก มีบรรยากาศดีไม่มาก

นักเรียนใช้เวลาที่โรงเรียน ที่โรงเรียน พวกเขาต้องเรียนสำหรับการสอบนานาชาติเป็นภาษาญี่ปุ่น (ตั้งแต่พวกเขายังไม่เข้าใจภาษาญี่ปุ่น) และไม่คอยได้มีโอกาสมีการแสดงความคิดเห็นของตนเองอย่างแน่ เพราะพวกเขาเขามีวัฒนธรรมและภาษาที่ต่างกับกับคนญี่ปุ่น

ทั้งนั้น ฉันหวังใจว่านักเรียนที่มีความกล้าใจมากแล้วก็หายไปความเชื่อมั่นในตนเอง

ในห้องเรียนภาษาญี่ปุ่นที่ฉันไปสอนนั้น ฉันพยายามจะสร้างบรรยากาศดี ตัวอย่าง ฉันกับนักเรียนร่วมคิดกันถึงความกล้าใจของตนเอง ทำให้นักเรียนวางใจ

เมื่อนักเรียนหายไปความกล้าใจ หน้าตาแจ่มใสดีมาก ขึ้น และนักเรียนรู้ว่าความกล้าใจเป็นอย่างไร ความกล้าใจหายไปเด็ดขาด แล้วก็เริ่มหัดเรียนขึ้น

นักเรียนทุกคนมีความคิดแต่ละคน ทำให้ฉันค้นพบใจตนเองใหม่ได้

วันหนึ่ง นักเรียนคนหนึ่งบอกฉันว่า " น่าอิจฉานะคะ ครูพูดภาษาญี่ปุ่นเก่งมาก " แล้วก็ฉันบอกนักเรียนคนนั้นว่า " น่าอิจฉานะคะ คุณพูดภาษาจีนเก่งมาก " แล้วก็นักเรียนนั้นได้รู้จักว่าตนเองพูดเรื่องแปลก

กรณีมีคนที่พูดภาษาชาติมาก และมีคนพูดภาษาต่างชาติ น้อย ก็บางคนพูดภาษาต่างชาติ คงจะไม่เชื่อใจว่า "ภาษาของตนเองมีการคำหรือ" นักเรียนนั้นทำให้ฉันรู้จักว่า ถ้าสมัย เมือง วัฒนธรรม เป็นต้น เปลี่ยนไปสามัญสำนึกก็เปลี่ยนไปด้วย ทั้งนั้น ทุกวันพฤหัสบดี ฉันได้มีความสุข ความทุกข์และ มีความคิดใหม่ได้



## 私、もう入社して10年

### 総務部 北村高子

先日ナルゲの編集長よりナルゲの原稿を書いてほしい!! と私言わく「ネタが無い!!」とするとさすが10年になるので何か一言と...

そうです今年で丁度入社して10年になるので、よく10年一昔と言うけれどよくがんばってこられたものです。でも正直いつのまにか年月がたってしまったという感じもします。幾年かは一人で仕事をこなしてたので私なりの苦労も多かったのと特に事務のコンピュータ化、これには苦労しました。何せ頭が堅いものですから、でもこれだけ永く籍をおく事が出来たという事は私にとっては居心地がよかったからでしょう。

今は仕事のパートナーもいて毎日充実して仕事が出来、現状に深く感謝しています。

この先何年勤める事が出来るか分からないけれども、より精進してがんばっていきたくと思っています。と同時にKBSの益々の発展をお祈りします。



## マダンの児(4話)

翻訳・データ部 朴禮和(パク・エイファ)

稲刈りが済んだ後の田んぼは、タニシをとる子供たちの声であふれます。私も姉とタニシを取りに行きました。父の手編みの手提げ袋にタニシを入れたものでした。父が母と結婚前に母にプレゼントした手提げ袋です。タニシを入れる袋ではなく、母にとっては大事な手提げ袋だったのです。細かい網目に田んぼのねばっこい泥がこびりつき、洗濯してもなかなかとれません。もちろん叱られました。泥が取れるまで小さい私はもっと小さくなっていました。(雨の日、父は細い麻糸数本を撚って極太の毛糸ぐらいの太さにしてその何本かを天井からつるし、紐の先に石を結びつけます。その紐を前後左右に混ぜるように動かしながら編みます。編み紐を動かす度に石と石が触れてカチッ、カチッと音をたてます。編まないときは石の重みで紐はピンと垂れ下がっています。私はそれに触ってはいけません。)

母は市場に行くときは必ず、父の手編みのこの袋を持って行きました。市場へは歩きに歩いて行きます。隣村や峠や野を越えて行く遠い所に位置していたので、私は一度も市場に連れて行ってもらったことはありません。祝い事や法事でもなければめったに市場に行きません。市場で肉、干物の魚、乾燥コサリ(わらび)菓子、季節の果物などを買ってくるのです。市場へは朝まだ暗いうちに何人かの主婦たちが一緒に出かけます。母が市場へ行く日は母がどんなにそっと出かけようとしても、私は母より早く起きて外で待っていたものでした。母は困り足で、くつを買ってきてあげるからと私をなだめて出かけたときがありました。母の姿が見えなくなるまで泣きました。一日中遊んでいても落ちつきません。母が現われる方向を何度も見るのに忙しいのです。母の帰りを待ちわびるのでした。暗くなった頃、ようやく母は買い物袋のふろしき包みを下げて汗ビショッ(冬でも)の顔で帰って来ま

す。女性たちは大きな荷物は頭に載せて運ぶのですが、母は頭の上に乗せることが不得手だった(?)ようです。母が買って来たくつは黒のコムシン(ゴムくつ。これは男の子用、私は女の子なのに...)。実は先のがった女の子のくつより黒いくつが似合う男の子のような私ではありましたが、黒くつでもうれしくてしばらくの間、每晚抱いて寝たものです。大人になって、ひとこころの私は赤い靴ばかり履いたのは、この時の反動のようです。

村の若い主婦やアガシ(娘)たちは夜、クルパン(寺小屋)へ集まり勉強をしていました。母の実家の一室がクルパンです。村長(母の兄)が先生です。主婦といっても当時は早婚時代だったのでほとんど、はたち前後だったのでは、と思います。笑い声は絶えることがなく、みんな本当に楽しそうでした。母は夜のクルパンで勉強していたので字が読めました。父から手紙がくると先生が読めないのに、母はすらすら読んだそうです。父の文字は独学なので芸術的な書体文字でした。(それでも母は読めたとは夫婦愛...)。

村の女の子で小学校へ行っていたのは、姉だけでした。父が日本から仕送りをしてくれたからです。父は生活が苦しくても必ず学校へ行かせるように手紙に書いてあったそうです。姉は学校で勉強しているのに、夜も母と一緒にクルパンへ行きました。勉強が好きだからでなく、私と二人だけで家にいるのがこわいのです。故郷の夜は子どもにとって本当にこわいものでした。「ホー、ホー」と、ふくろうは鳴くし、まわりは真っ暗ですから、それに家は村里から離れた一軒家だし...。もちろん



私も一緒にいきます。私はクルパンのすみっこでおとなしくしていました。耳に聞こえる「カナダラ〜(日本のアカサタ〜)と、皆声をそろえて抑揚をつけ歌を歌うように読みあげます。ひと読み終わる度に、みんなはどっと笑います。勉強が終わるころには蒸したてのさつま芋と、ムルキムチ(水キムチ)とを持った祖母がにこにこしながら現われます。私が眠い

のをがまんするのそのためでした。

秋になると、姉が通っている小学校の運動会があります。当日になると村中がお祭りのような楽しい雰囲気につつまれます。子供が学校へ行っていない家でもみんなおべんとうを持って出かけます。近隣の村の社交の場にもなるのです。

この小学校はあちこちの村の子どもたちが通学していたので、親戚同士が久しぶりに会える日でもありました。人々は競技そつちのけで車座になりおしゃべりし、食べて、飲んで、と楽しい1日を過ごすのです。種目の1つに幼児のための「くひろい」がありました。チビッコを集めておいて男の先生たちが、かけ声と共に栗を高くほうり投げます。イガのままの栗もあります。イガが当たって泣き出す児、それをひろい痛くて泣き出す児、大人たちは声援したり笑ったり大騒ぎです。私も栗ほしさにおずおずと参加しました。(姉に背中を押されてではあったが)私は1つも拾えません。やっとなみつけてもほかの小さい手がすばやく拾ってしまうのです。うろろするばかり。半ベソになったころ、どこからともなく真っ赤な顔をした姉が両手いっぱい栗をもって現われ、私のチマを広げさせて栗を素早く入ると、さっと人込みの中へ消えました。(これは反則のはず)見物人たちはどっと笑います。私は嬉しいやら恥ずかしいやらで胸がどきどきしました。日頃あまり遊んでくれない姉がこの時ばかりは頼もしく優しく思えました。もたついている私をみかねたのでしょ。日々のんびりと丘の中でひとり遊びになれている私は大勢の人たちに圧倒されました。ましてや人と競技をするなんて...。その夜はなかなか寝つかれませんでした。人々の歓声が耳にこびりついていて。

(つづく)

### 1998年 年中行事

- 1月5日 30周年記念・新年会(つるつる亭)
- 4月 花見大会(大阪城公園)
- 8月 第9期決算  
花火大会(淀川河川敷)
- 11月 社員旅行(韓国濟州島予定)
- 12月 忘年会

### 制作後記

社内報「なるげ」20号の制作は、こうだ。ページメーカー6.5Jで組版をし、保存を6.0Jにした。面つけソフトがまだ6.5Jに対応していないからだ。

完全16ページ面つけして、ラックスセツ

ター5600でフィルム出力。

この度は30周年記念号ということでいつもの8ページから倍の16ページになった。

外部からの30周年にまつわる祝辞や感想の原稿も入り、ボリュームアップした。

振り返ってこのナルゲをみると、始めは300DPIのプリンター出力されたものに、写真はカミヤキされたものを張り込み、マックで制作はしているものまったくのアナログ作業だった。

イメージセッターが導入されて、フィルム出力したが、初めは日本語があまじきれいに出ていなかった。号数を重ねるうちに出力も安定し、日本語フォントもモリサワ書体、ロダン、マチスと豊富に使えるようになった。多言語は韓国語、中国語、タイ語など、すべて混植フルデジタルで作製されるようになった。あとは、内容の充実とデザインの向上だ。

# Win95用ワープロソフト

## 「アレアハングル日本版」販売開始！

### 日韓機械翻訳サービスが1年間無料になる特典付き！

昨年(1997)の12月4日、当社は韓国(株)ハンコム・サービス社と販売代理店契約を結び、Windows95用ソフトである「アレアハングル日本版」の販売を開始しました。

「アレアハングル日本版」は、韓国国内で70%以上のシェアを誇るワープロソフト「アレアハングル」を日本のユーザー向けに改良したもので、Windows上では初の本格的なハングル入力可能なワープロソフトでありしかも日本語やその他の外国語も扱えるマルチリンガル・ワープロソフトとして十分な機能を備えています。

当社でも、現在ハングルの入力にはこのソフトを使用しており、ことハングル文書、またはハングル混じりの文書を作成することにおいては、現時点で「アレアハングル」の右に出る



ソフトは無いといっても過言ではありません。

そこで、当社では今回の代理店契約締結を記念して、3月31日までに「アレアハングル日本版」をご購入の皆様に、日韓機械翻訳サービスが1年間無料になるKBSならではの特典を用意しました。

当社では、1年ほど前からインターネットのホームページ上で日本語から韓国語への機械翻訳サービスを実施しており、料金が安く(400字で1000円)、納期も早い(24時間以内)ため好評を得ています。この便利なサービスを、今回ご購入の皆様は1年間無料にてご利用いただけます。翻訳文は電子メールにて送信しますので、すぐにアレアハングルでデータを活用できます。

韓国の知人やメールフレンドとハングルでコミュニケーションするチャンスですよ!!

価格(CD-ROM版)  
定価:39,800円(税別)  
アップグレード:19,800円(税別)

製品カタログ、ご購入のお問い合わせは、営業部高まで。  
TEL:06-716-5665 / FAX:06-711-2104  
E-mail:yoonnam@kbsjapan.com



12月4日、KBSの働きかけで、開発元のハングル&コンピュータ社より大阪にある民族学校、建国高等学校に41台分の「アレアハングル」が寄贈され、韓国系新聞各紙に報道されました



左から高社長、李燦振ハングル&コンピュータ社長、張成秋建国高校校長

## 「アレアハングル」だけの機能が満載！！

一つの文書に日本語とハングル、その他の外国語が混在可能  
アレアハングル日本版なら、一つの文書にハングルと日本語が混在できます。日本語入力には、使い慣れたWindows95用日本語IMEがそのまま利用でき、ハングル入力は2ポル式、3ポル式、またローマ字式をサポートしました。しかも、フランス語のアクサン記号、ドイツ語のウムラウトなど欧州諸語特有の記号も、それぞれの専用キーボード配列から入力でき、ロシア語、ギリシャ語、ヘブライ語までも入力可能です。

また、他のハングル入力ソフトのように、入力とフォントを別々に切り替える手間もありません。キーボードまたはマウス操作一つで、日本語とハングル、その他の外国語の入力状態が簡単に切り替わります。

メニューやヘルプは、日本語、ハングルどちらでもユーザーの母国語や好みによって、メニューやヘルプ、その他のメッセージの表示を、日本語またはハングルのいずれかから選択し、切り替えることができます。

強力な自動入力校正、ハングル正書法、英文スペルチェック機能  
ハングル入力中に正書法にそぐわなかったり、綴りの誤った部分を自動的に修正する入力自動校正機能と、入力完了後に活用できる正書法検査機能をそれぞれ搭載。ハングルの初学者はもちろん、中級以上の方でもつい冒しがちな正書法の誤りが未然に防げます。

また、英語の文書のスペルチェック機能も備えています。

現行ハングルで表現可能な11172字と、古語体のすべてが表現可能  
ハングルは母音と子音の字母を組み合わせる文字を構成し、本来11172字もの表現が可能な表音文字ですが、WindowsやMacintoshで採用されている韓国の標準規格・KS完成型(KSC5601)ハングルコードに含まれているのは、このうちわずか2350字のみです。

アレアハングルは独自の内部コード体系で文字処理を行うことで、世界で唯一、11172字のすべてのハングルを表現できるワープロソフトです。

さらに、漢字についてもKS完成型コードの漢字(4888字)に含まれていない、多数の拡張漢字をサポートし、韓国の人名・地名漢字をフルカバーします。

豊富なフォントを用意

40種類を超える豊富なハングル・アウトラインフォントに加え、定評ある米BitStream社製英文フォントを含む、151種類ものフォントが含まれています。

段組編集、図表、表計算、チャートを搭載

アレアハングルの表作成機能なら、複雑な図表も自由自在です。行と列を指定して表を作成できるだけでなく、行や列のサイズは必要に応じて拡大・縮小、結合・分割も可能です。

さらに、表に入力された数値を専用スプレッドシートのように自動的に計算できる計算式機能や、その結果をグラフ表示できるチャート機能も搭載しています。

また、段組編集やテキストボックスなど、専用DTPソフトに匹敵する高度なレイアウト機能も備えています。

この他にも、ハイパーリンク機能、プレゼンテーション機能、HTML変換機能、強力なマクロ機能、数式エディタ、文字加工ツール、テキストアート、ハイパーテキスト形式の英韓・韓英辞書、豊富なクリップアート、写真データや書式集など、書ききれないほどの機能が満載です。